

## 公民館を訪ねて

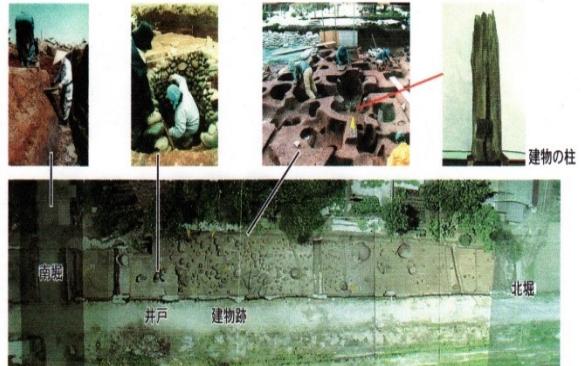
# 学びが支えるまちづくり事業

—文化と活力のあるまちを目指した、地域活性化の取り組み—

森田公民館

## 1 森田地区の概要

森田地区は、福井市の北部に位置し、坂井市に隣接している。面積は5.8平方キロになり、九頭竜川の沿岸に位置している。ここ数年は、90年代後半から始まった土地区画整理事業に伴い、道路や新幹線用地の整備が進み、住宅やアパートが多数建設され、人口増加が著しい地区になっている。平成20年5月には地区東部に、コシヒカリをイメージしてデザインされた「配水塔マイアクア」が完成し、森田のランドマークとして注目されている。



石丸城跡の発掘

## 2 遺跡発掘がきっかけとなって

区画整理事業に伴って、「石丸城があった」といわれていた場所の発掘調査が行われ、堀の跡、大きな建物の跡、生活用品が次々と現れてくるとともに、古くから伝えられていた「館の前」「館の中」という字名が、それぞれ堀の外、堀の内側に位置していたことが確認された。「太平記」に出てくる新田義貞や城主であった義貞の弟の脇屋義助が活躍する石丸城がこの地にあったことが確認され、地区民の喜びはひとしおであった。しかも堀の付近から南北朝時代の武士が着用していた鳥帽子も出てきた。

この遺跡のある場所を、歴史のロマンを感じる「公園」にしていくために、公民館は福井学の講座を開設し、歴史学者を講師に招き、学習を始めたことにした。

### (1) 新田義貞、脇屋義助を知ろう

講師から「太平記」の越前での戦いのくだりを解説していただき、「戦いの起こった理由」「新田義貞、脇屋義助が戦った様子」「石丸城まできた経路」を学習してきた。学んだことは文化委員の協力を得ながらパネルにし、文化祭で展示して広くアピールしてきた。

### (2) 脇屋義助の軌跡を訪ねる館外学習

平成22年には、群馬県太田市の新田義貞、脇屋義助の菩提寺を訪問、平成23年には愛媛県今治市で病死した脇屋義助の墓参を行った。1・2回目とも、バスの中では南北朝時代の国内の様子や、福井学での学習を発表し合ったり、大河ドラマ「太平記」のビデオを見たりして、研修を積んだ。

平成24年は奈良県吉野町の後醍醐天皇の御所跡を、25年は歴史のロマンを求め、鎌倉をそれぞれ訪れ、1年に1度の県外学習を、次の活動へのエネルギーとしている。

### (3) 三峰城跡保存会の人たちとの交流

鯖江市の三峰頂上には脇屋義助の大きな顕彰碑があり、毎年除草その他で大切に管理をされてる。福井市の「春祭り時代行列」では、毎年森田地区からも脇屋義助隊として30数名が武者姿で参加しているが、三峰保存会の方々にも参加していただくなど、お互いに訪問しあい交流を深めている。

### (4) 子どもたちにも伝えよう

地域の人から募集した、「石丸城」を唄ふ歌に曲をつけ、公園予定地で発表、披露を行った。また、歴史的文化遺産や脇屋義助のことを、小冊子にして伝える講座にも取り組み、冊子やCDを小・中学校

に配布したり地域の人に販売したりしている。

### 3 JR森田駅の活性化

#### (1) 簡易委託販売駅をきっかけに

平成11年JR西日本が森田駅の無人化を打ち出した。地域の衰退を憂いた地元自治会が簡易委託方式による市の管理を福井市に要望し、無人化を免れた。

その時以来、文化委員会と公民館は、駅活性化の取り組みを進めてきている。

#### (2) 森田地区民に愛される駅を目指し

公民館の文化委員会は、平成22年2月「もりた夢駅～冬物語」のイベントを実施した。仁愛女子短期大学の学生による音楽コンサートや子どもコーナー、文化委員会によるイルミネーション設置など、華やかな森田駅を演出した。その活動が市を動かす原動力となり、駅舎内にギャラリーが作られ、その後定期的に「夏物語」「冬物語」を続けて開催している。



また、駅舎前が雑然としていたのを「花もも大作戦」と銘打ち、文化委員総出の作業で10本の桃の木を植えた。その後、駐輪場の壁面に仁愛短大と協力して、ペインティングも行った。何年後かは花桃とともに駅のシンボルとなるであろう。

### 4 九頭竜川を誇りにしよう

#### (1) 堤防に並ぶ謎の県外ナンバー

九頭竜川は、サクラマスのブランドリバーよりと言われ、多くの釣り客が訪れる。ただ、地区民はそのことを知ることもなく、釣り客との友好関係を作ることができ

ずにいた。

そこで、関係者の方の協力を得て、「サクラマスサミット」を開催し、専門家の講演や、座布団集会での話を聞いたりしてサクラマスへの知識を研鑽してきた。

#### (2) 釣り客の話から

「サクラマスサミット」に参加された県外釣り客の方の手紙の中に、毎回袋いっぱいのゴミを拾って持ち帰るとは・・・驚きのフレーズだった。

このことが機となり、「九頭竜川クリーン作戦」が始まった。26年度からは、近隣の公民館や、中部漁協と一緒に開催した。将来は、九頭竜川の上流から下流まで「クリーン作戦」の運動が広がっていくことを夢見ている。



### 5 終わりに

公民館では、まちづくりを推進していくために将来ビジョンを作成し、実行に移している。区画整理事業が進むにつれ、森田地区に誇りを持ち『森田に住んで良かった、これからも住み続けたい』と思う人を増やし、地元民と新住民との融和を図ろうとの活動が少しずつ実を結びつつある。今後も、将来ビジョンを実行に移していくことがまちづくり活動を理解するための指針になり、ひいては公民館の応援者がますます増えしていくことを願っている。

森田公民館は、地区にある様々な社会的資源や課題を把握、それらを「まちづくり」推進のための活動につなげてきたことが評価され、平成24年度文部科学省優良公民館として表彰されました。その地域活性化のための意欲的な取り組み内容を紹介しました。